

# 平成21年度 学校評価実施要項

仙台市立仙台商業高等学校

## 1 趣 旨

仙台市立学校の管理運営に関する規則第23条に基づき、本校の教育全般にわたる教育計画及び教育活動に係る自己点検・自己評価を次のねらいのもとに行い、教育活動の継続的な改善，更新，革新を図る。

- (1) 社会の変化に対応し，開かれた学校づくりや特色ある学校づくりを推進する。
- (2) 生徒や保護者のニーズに対応した教育を行う。
- (3) 教育計画及び教育活動を点検し，評価することで改善方法を明らかにする。また，その結果を公表することで，保護者や地域社会等に対して説明責任を果たし，理解と支持される学校づくりを進める。
- (4) 教育目標達成のための教育活動をより効率的，効果的に行う。また，校内組織と教育活動の活性化を図る。

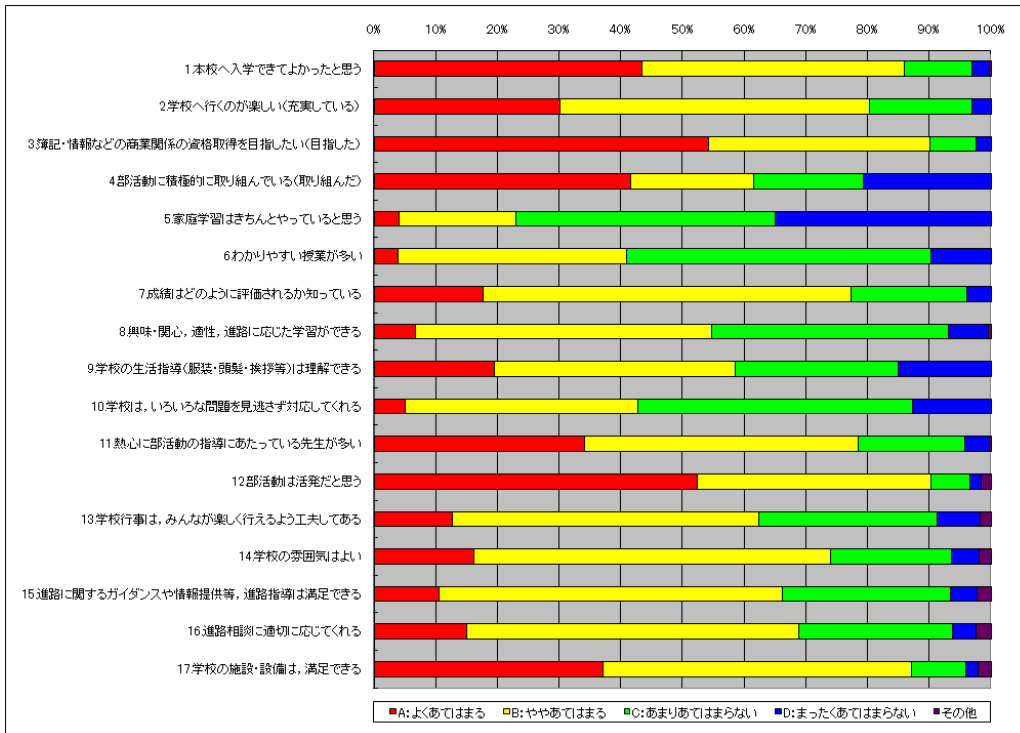
## 2 実施日および対象

実施日：平成21年12月

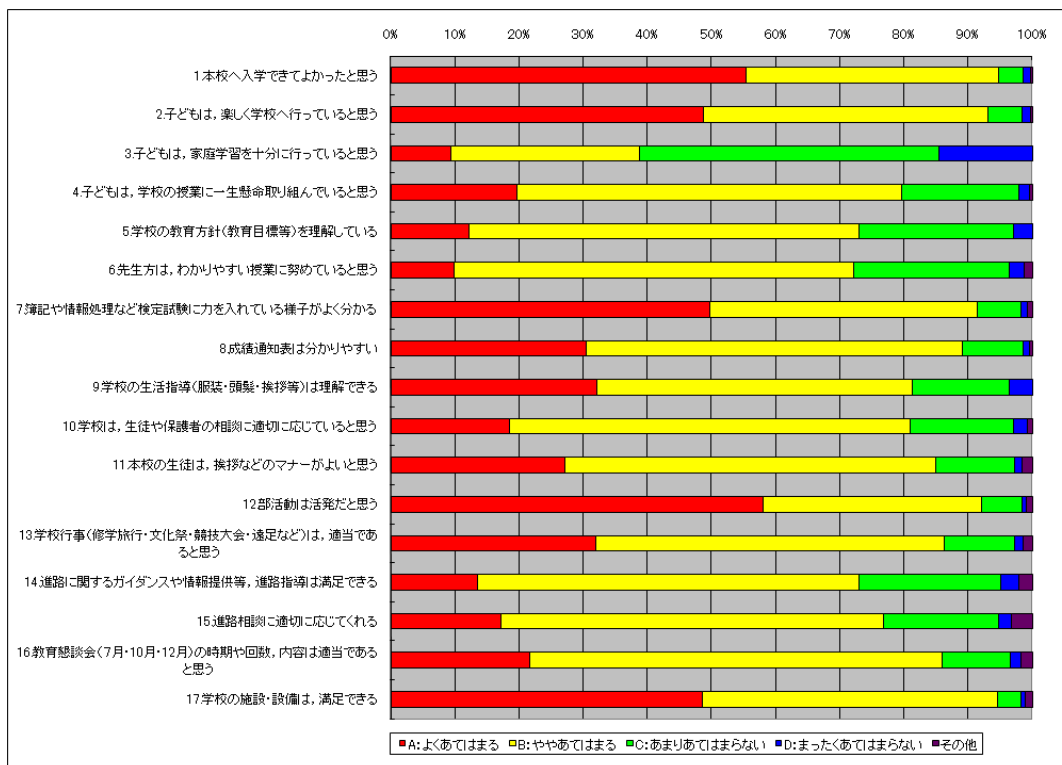
対 象：生徒・保護者全員

## 3 集計結果

### (1) 生徒結果集計（グラフ）



## (2) 保護者結果集計 (グラフ)



## 4 まとめ

集計の数字として用いている ( ) 内の%は、「よくあてはまる」と「ややあてはまる」の合計を使っている。割合が高い数字はアンケート項目中上位から、割合が低い数字はアンケート項目中下位から順に五位までを並べたものである。

### ◎生徒の割合が高い項目

- (1) 部活動は活発だと思う (90.3%)
- (2) 資格取得を目指している (目指した) (90.1%)
- (3) 施設・設備は満足できる (87.1%)
- (4) 入学できて良かった (85.9%)
- (5) 学校が楽しい (80.4%)

### ◎保護者の割合が高い項目

- (1) 入学させて良かったと思う (94.8%)
- (2) 施設・設備は満足できる (94.6%)
- (3) 楽しく学校へ行っている (93.1%)
- (4) 部活動は活発だと思う (92.0%)
- (5) 資格取得を目指している (目指した) (91.4%)

### ◎生徒の割合が低い項目 (下の1~5は旧仙商と同順で、数値もほとんど変わらない)

- (1) 家庭学習をきちんとしている (23.0%)

- (2) わかりやすい授業が多い(40.9%)
- (3) 学校はいろいろな問題を見逃さず対応してくれる(42.8%)
- (4) 興味・関心・適性・進路に応じた学習ができる(54.7%)
- (5) 生活指導は理解できる(58.7%)

◎保護者の割合が低い項目

- (1) 子供は家庭学習を十分にやっていると思う(38.8%)
- (2) 先生方はわかりやすい授業に努めていると思う(72.2%)
- (3) 学校の教育方針を理解している(73.0%)
- (4) 進路指導は満足できる(73.0%)
- (5) 進路相談に適切に応じてくれる(76.8%)

◎生徒と保護者両方の割合が高い項目

- (1) 部活動は活発だと思ふ(生徒 90.3% 保護者 92.0%)
- (2) 入学できて(させて)良かった(生徒 85.9% 保護者 94.8%)
- (3) 施設・設備は満足できる(生徒 87.1% 保護者 94.6%)
- (4) 資格取得を目指した・目指している(検定試験に力を入れている)(生徒 90.1% 保護者 91.4%)
- (5) 学校へ行くのが楽しい(楽しくいっている)(生徒 80.4% 保護者 93.1%)

◎生徒と保護者両方が低い項目

- (1) 家庭学習をきちんとしている(生徒 23.0% 保護者 38.8%)
- (2) わかりやすい授業が多い(努めている)(生徒 40.9% 保護者 72.2%)
- (3) いろいろな問題を見逃さずに対応してくれる(生徒 42.8% 保護者 81.0%)
- (4) 進路に関するガイダンスや進路情報提供に満足できる(生徒 66.2% 保護者 73.0%)

◎生徒と保護者の割合に差が大きい項目

- (1) 学校はいろいろな問題を見逃さず(相談に適切に)対応してくれる(生徒 42.8% 保護者 81.0%)
- (2) 学校の生活指導は理解できる(生徒 58.7% 保護者 81.3%)
- (3) 学校行事は(適当である)皆が楽しく行えるよう工夫してある(生徒 62.4% 保護者 86.3%)
- (4) わかりやすい授業(に努めている)が多い(生徒 40.9% 保護者 72.2%)

◎生徒のみの質問

- (1) 学校の雰囲気が良い(生徒 74.0%)
- (2) 熱心に部活動の指導にあたっている先生が多い(生徒 78.5%)

◎保護者のみの質問

- (1) 成績通知表は分かりやすい(保護者 89.2%)
- (2) 生徒の挨拶等マナーが良い(保護者 84.9%)
- (3) 教育懇談会の時期や回数・内容は適当である(保護者 86.0%)

(4) 学校は生徒や保護者の相談に適切に応じている (保護者 81.0%)

◎学年によって回答率が大きく違う項目

<生徒>

- (1) 進路に関するガイダンスや情報提供等に満足できる (1年 74.9% 2年 52.7% 3年 73.2%)
- (2) 生活指導は理解できる (1年 69.8% 2年 49.6% 3年 59.2%)
- (3) 進路相談に適切に応じてくれる (1年 69.5% 2年 58.8% 3年 78.8%)
- (4) いろいろな問題を見逃さず対応してくれる (1年 52.9% 2年 35.2% 3年 42.9%)
- (5) 入学できてよかった (1年 77.7% 2年 87.4% 3年 90.6%)
- (6) 学校へ行くのが楽しい (充実している) (1年 74.2% 2年 79.4% 3年 86.1%)

<保護者>

- (1) 家庭学習を十分にやっていると思う (1年 39.3% 2年 32.6% 3年 43.8%)
- (2) 子どもは学校の授業に一生懸命取り組んでいると思う (1年 84.1% 2年 73.9% 3年 81.0%)
- (3) 先生はわかりやすい授業に努めていると思う (1年 67.8% 2年 69.8% 3年 78.0%)

◎男女差の大きい項目

<生徒>

- (1) 部活動に積極的に取り組んでいる (男子 72.4% 女子 49.9%)

他に 10%以上の開きのある項目はないが、5%以上のものを下記に示す。

- ・熱心に部活動の指導にあたっている先生が多い (男子 82.5% 女子 74.3%)
- ・学校行事は、みんなが楽しく行えるよう工夫してある (男子 49.4% 女子 58.1%)
- ・わかりやすい授業が多い (男子 43.5% 女子 38.0%)

<保護者>

- (1) 子どもは、家庭学習を十分に行っていると思う (男子 32.0% 女子 45.6%)
- (2) ・学校行事は適当であると思う (男子 92.2% 女子 81.3%)

保護者で 10%以上の男女差のあるものは2項目だけであり、生徒同様に大きな男女差は見当たらない。特に上記(2)は差があるとはいっても 8割以上の評価を得ている。以下に多少差のあるものを列挙する。

- ・学校の生活指導は理解できる (男子 84.7% 女子 77.9%)
- ・部活動は活発だと思ふ (男子 95.4% 女子 88.7%)

【分析・考察】

1 学校に対する全体的な印象

「本校へ入学できてよかった」との回答が全体では 85%を超えている。2・3年生は本校を受検する時点で、今年度 4 月からの学校統合を理解して入学してきたことを表していると思われ、2年生 87.4%、3年生は 9割以上の生徒が本校へ入学できてよかったとしている。1年生の割合が最も低い (77.7%) のは、女子の約 3割近くが、「あて

はまらない」または「まったくあてはまらない」と回答していることによる。ただ、保護者からは全学年とも93%以上が入学できてよかったという回答を得ている。また、「学校へ行くのが楽しい(充実している)」とする項目に関しても同様な傾向が見られ、3年生が最も高く(86.1%)、2年生(79.4%)、1年生(74.2%)と低下するが、保護者の方は学年に関係なく9割を超えている。以下に目的意識、学習意欲、生活意識、進路意識に項目を分けて分析するが、これらの割合が高いことから、第一段階として生徒に対しての学校としての教育活動が効果的に行い易いということを暗示してくれよう。

## 2 目的意識

「資格取得を目指している(目指した)」生徒の平均が9割以上、さらに「部活動に積極的に参加している(参加した)」生徒及び「学校全体に部活動が活発だと感じている」生徒が同じように9割を超えている。保護者のアンケートにおいても、この項目の関連では9割を超えるという高い割合を示している。これらについては、旧仙商において推薦入試により入学してくる定員の40%の生徒の多くが、『商業関係の資格取得を目指しながら部活動にも積極的に取り組みたい』という目的意識を強く持っていることが統合後の現在でも良く生きているということを示している。そしてこれらの生徒が商業高校としての特徴をよく理解して学校生活に明確な目標を持っている姿が、一般入学してくる生徒達に対してもよい効果を及ぼすであろうということにつながっていくことができよう。

また、後述するように部活動への取り組みについては、学年による差よりも男女による差が大きい。今後とも、生徒達が充実した学校生活を送れるよう、本校の特色ある教育活動を継続し、さらに発展するよう実践していきたい。

## 3 学習意欲

この学習関係は学校評価が開始されて以来、旧仙商において残念なことに大変低い割合を示している。特に、家庭学習の状況は残念な結果である。生徒の「よくあてはまる」「ややあてはまる」を回答している1年生が26.2%、2年生が17.7%、3年生が26.1%(旧仙商は昨年27.7%)で、進路決定を目前にしている割には低い割合に終わってしまっている。反面「資格取得を目指している・目指した」とする生徒が全体で90.1%もあり、大多数の生徒たちが資格取得を達成していることを考えれば、家庭学習をしっかりさせる事により今まで以上の高いレベルでの資格取得へ挑戦や大学進学や就職でも進路関係のレベルを上げた挑戦が可能になることと思われる。資格取得に関する学習としては、検定試験の実施時期と科目によっては学習時期との時間差が大きいですが、生徒の半数以上が家庭学習を行い、部活等で家庭学習の時間が取れない生徒は、始業前や休憩時間を上手く使いながら検定試験の合格を目指している。内容的には、1年では平日の家庭学習時間

は高校受験が終わって学習しなくなった生徒と、長時間学習する習慣が身についた生徒の両端が増加し、二極化傾向を示している。2年では平均値では大きな変化はないが、学年が上がるにつれて分散が大きくなっていく。意識面では再び将来を見据えて学習する傾向が強まる。

生徒の「わかりやすい授業が多い」が40.9%という値は昨年度の旧仙商の数値とまったく同じであるが、このことについては、校内授業研究会や公開授業さらには各人の自主的教材研究等を通じ、「わかりやすい授業」から「生徒の授業がわかった」を目指し全教職員が真摯に研修に励むことでしか解決しないだろう。ただ、生徒が考えるわかりやすさというものが、授業内容の平易さのみを表していることも考えられ、今後この項目を吟味することも大切かもしれない。

#### 4 生活意識

「学校行事は楽しく工夫してある」に関しては、新型インフルエンザの流行により仙商祭（文化祭）が中止されたこともあり、60%強の支持しかえられていないのは致し方ないであろう。「学校の雰囲気はよい」に関しては80%を超える高い割合を示している。「学校の生活指導は理解できる」に関しても58%の割合で理解されている点は評価できるだろうが保護者（81.3%）との開きが大きい。生徒にとって「校則」等に不満があることは理解できるが、社会的な常識や規範意識の大切さ等を根気強く指導していきたい。

生徒の「学校はいろいろな問題を見逃さず対応してくれる」が42.8%と低く、この点も問題である。保護者の「学校は生徒や保護者の相談に適切に応じている」が81.0%であり、生徒と保護者の捉え方に違いが生じている。保護者が全ての評価項目に対して理解を示しており、全体平均で「よくあてはまる」「ややあてはまる」の割合が80%を超えることを考えれば、現在の学校の教育活動全般が保護者から認知されていると解釈できる。ただし、日常、相対している生徒との関係としては、様々な問題に対し、素早く適切な対応を心がけているが、結果から見ると不十分である。生徒とのさらなるコミュニケーションや迅速なる対応を図りながら問題を解決していきたい。

保護者の「生徒の挨拶等のマナーが良い」は、85%と高い（旧仙商では93%）割合を示しておりこの点は、本校の誇りでもあり、学校全体の雰囲気を形作っている原点でもある。今後とも教職員が自ら模範を示しながら生徒の意識を高めていきたいものである。しかし、校内外に問わず一部の生徒の幼稚さが行動に現れ、度々注意を受け、事故を起こすこともあり、特に今後は校外においても高い評価が得られるよう指導していきたい。

#### 5 進路意識

この進路関係項目は生徒と保護者とも割合としては低い結果を示している。この調査と進路説明会との時期によっても割合が変化する項目でもある。保護者の「進路に関するガイダンスや情報提供等に満足できる」と「進路相談に適切に応じてくれる」の項目

についていずれも 70%を示しているが、生徒はいずれも 60%台である。

進路に関する情報や進路相談については、1年生に低く学年が上がるほど数値が高くなるのが普通であるが、1・3年生が7割を超えているのに、来年度中に進路決定を控えている2年生が50%台であることは早期に進路意識を高めることが重要になることが読み取れよう。

1年生の早い段階から進路意識の高揚を図りながら、もっと積極的に進路について考える機会を与え続けることはもちろんであるが、特に2年生に対する進路意識の高まりを促す指導が重要であろう。そして自己理解を早い段階で行わせることで、生徒の持っている興味・関心・適性等を理解させる手段等も指導に加えなければならない時期にきているだろう。

## 6 男女差の大きい項目について

前述したとおり「部活動に積極的に取り組んでいる」は、

男子72.4%、女子49.9%と最も開きが大きい。さらに細かく学年ごとに見てみると、右の表のようになり、特に2年生の女子の低さが目につく。積極的に学校生活に取り組ませたり、次年度の進路指導を考えたとき、早めの指導が必要なことを暗示している。

	男子	女子
1年	81.6%	64.3%
2年	74.6%	38.5%
3年	64.6%	51.3%

保護者の回答の中から「学校行事は適当であると思う」が10%以上開いているが、ともに8割を超えていることから来年度以降もおおむね今年度のように進めていきたい。

一つだけ注意をしなければならないのは、男女差について生徒の回答の開きより保護者のそれの方がほとんどの項目で開きが多少大きくなっている点があるので来年度以降に注意深く分析することが必要かもしれない。

## 7 その他

「施設・設備は満足できる」は、生徒・保護者とも90%台を示している。旧仙商が泉校舎に新築移転して11年目となるが、公立高校としては全国でも有数な施設設備を有効に活用していることや環境整備にも力を入れていることから満足度が高いと思われる。今後も、生徒が「楽しく」「安全に」学校生活を送れるように、保守・整備にあたっていきたい。

保護者および生徒からの自由記述欄では、多数の建設的な意見や要望等をいただいた。今回のアンケートの分析結果を活用するとともに、貴重な意見や要望等にも真摯に取り組み、よりよい学校を目指して検討・改善していきたい。